

西中では新企画となる全校福祉講座が、多くの講師の皆様のご協力のもと実施されました。講師の皆様、私たちのために準備に時間を費やして下さるとともに、当日も親身にご指導くださり有り難うございました。

福祉教育係の村澤先生が、昨年度から構想を練って計画してくれましたが、社会福祉協議会や公民館主事の方々はじめ、担当の先生方も事前打合せ等をしっかりと行い、今日も福祉委員会の皆さんが運営協力をしてくれたおかげで、とても有意義な時間を共有することができました。

本番に向けて、段取りよく準備をすることの大切さはもちろんのこと、参加協力をする全校生徒・先生方の支えがあるからこそ、我が西中のスクラムというかチームワークの良さを感じているところです。

前々回の校長講話の Yes and のところで「sympathy(シンパシー)同情ではなく、empathy(エンパシー)共感を」という話をしましたが、今回の講座で実体験をすることによって、今まで以上に相手を思いやり具体的に想像ができようになり、相手の立場になって共感することの素地力が身に付いたと思います。

最後に、次の言葉を紹介します。「子ども叱るな来た道じゃ、年寄り笑うな行く道じゃ」同じような言い回しで、「子を叱るな来た道だ、親を叱るな行く道だ」という言葉もあるようです。

人生 100 年時代何が待ち受けているか、そのときになってみないと分かりませんが、点と点を線で結んで様々なことを学び、人間関係でもカリカリしないで、自分自身を更新させながら生きていきたいものです。